

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	室内空気環境小委員会	主 査 名：柳 宇 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：倉渕 隆
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・室内空気質に関する国内、海外の最新情報を収集し、小委員会の活動方針を適時に点検する。 ・学会基準の制定・改定 ・ワーキンググループの設立、運営、調整を行う。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 主査：柳 宇 (工学院大学) 幹事：高塚毅 (新日本空調) 委員：池田耕一 (日本大学), 大場正昭 (東京工芸大学), 小竿真一郎 (日本工業大学), 鍵 直樹 (東京工業大学), 武廣絵里子 (鹿島建設), 長谷川麻子 (熊本大学), 湯 懐 鵬 (新菱冷熱工業), 野崎淳夫 (東北文化学園大学), 堀 雅宏 (横浜国立大学), 光田 恵 (大同大学), 山口 一 (清水建設), 横山真太郎 (北海道大学), 吉澤 晋 (愛知淑徳大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルムアルデヒドアカスタ改定 WG：2005 年に刊行された同規準の改定版の作成。 ・室内臭気規準改定 WG：2005 年刊行された同規準の改定版の作成。 ・室内空気環境におけるウイルス感染対策検討 WG：建築環境におけるウイルス汚染対策方法の検討。 ・微生物アカスタ (AIJES-A-002-2005) 改定 WG：2005 年刊行された同規準の改定版の作成。 ・浮遊微生物サンプリング法学会規準制定 WG：学会規準の制定 ・ハウスダスト調査 WG：最新情報を収集し、学会基準制定の可能性の検討。 ・燃焼排ガス汚染検討 WG：最新情報を収集し、学会基準制定の可能性の検討。 	
2012 年度予算	172,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	本小委員会を設置した 2009 年は新型インフルエンザパンデミックが起きた年であった。本小委員会は関連 WG の設置によって、最新情報を収集し、建築環境での対応方法に関する議論が深められた。また、2005 年に刊行された 3 つの学会規準の改定作業に精力的に取り組み、現在順調に進んでいる。さらに新たな学会規準の制定ができたほか、今後の学会規準制定における必要な情報収集と意見交換ができた。
委員会活動の問題点 ・課題	専門性・地域性を考慮した委員メンバーで構成しているが、十分な旅費が確保できなかった。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>(1) ホルムアルデヒドアカスタ改定 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：前回の規準制定後、ホルムアルデヒドが発がん性物質であることが WHO のがん研究センターより公表された。従って、リスク評価など発がん性物質に対する規準値の見直しが必要となった。本 WG は WHO など海外の最新情報を収集し、リスク評価手法を検討し、改定学会規準の原案を作成した。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(2) 微生物アカスタ (AIJES-A-002-2005) 改訂 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：2005 年に刊行された学会規準を基に、①基準値の見直し、②新たな基準値の設定、③ウイルス基準値制定の可能性の検討、を行った。その結果、①2005 年の規準値の改定の必要性がないこと、②住宅と社会福祉施設規準値が制定できること、③建築環境においては、環境微生物ではないウイルスの規準値の制定が難しいこと、明確にした。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(3) 室内空気環境におけるウイルス感染対策検討 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：インフルエンザウイルスと温湿度の関係について、既往文献と最新研究発表の内容について議論を重ねた。また、厚生労働省から発表された患者数と環境省の気象データを基に、インフルエンザと温湿度の関連性について検討を行った。その結果を論文集に投稿する予定である。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(4) 室内臭気規準改定 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：学会規準の改定において情報収集を積極的に行い、議論を重ねてきた。しかし、その間 ISO の関連規準が公表され、そちらとの関連性についての検討に時間を要した。 ・WG 活動の総合評価：B <p>(5) 浮遊微生物サンプリング法学会規準制定 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：計画通り、規準案を作成し、内部査読、第一次外部査読、シンポジウムの開催、意見公募、第二次外部査読の手順を経て学会規準を刊行する予定である。 ・WG 活動の総合評価：A <p>(6) ハウスダスト調査 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：最新情報を収集し、学会基準制定の可能性について検討を行った。 ・WG 活動の総合評価：C <p>(7) 燃焼排ガス汚染検討 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成度：精力的に最新情報を収集し、学会基準制定の可能性の検討を行った。 ・WG 活動の総合評価：B 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。